看護部

看護部長
三井　佐代子

看護部長
荒木　輝美
平成28年4月1日現在

国立病院機構の理念に沿った病院の使命を認識し、機構の看護職員として以下の役割を果たす

1. 機構及び病院の理念を踏まえた良質の看護サービスの提供に努める
2. 看護の質の向上を目指し、臨床看護の研究、業務の改善を行う
3. 良質な看護を提供するために、看護職員をはじめ看護に関係する職員の教育研修を行う
4. 看護の提供と経営効率の調和を図り、病院経営に参画する
5. チーム医療推進のための調整を図る
6. 地域住民への健康教育活動に参画する

□ 看護部の理念

私たちは、常に患者さんと共に歩み、
安心して納得のいく医療を受けていただくために、
わかりやすく丁寧な看護を提供いたします。

□ 看護部の目標

【平成２７年度　看護部目標】

スローガン　「個々が誇りをもった看護力の創出」

1. 全看護師の急性期看護能力の向上
2. 速やかでスムーズな地域との連携と、安定した経営
3. 倫理的観点にぶれない看護サービス

□ 看護部の組織

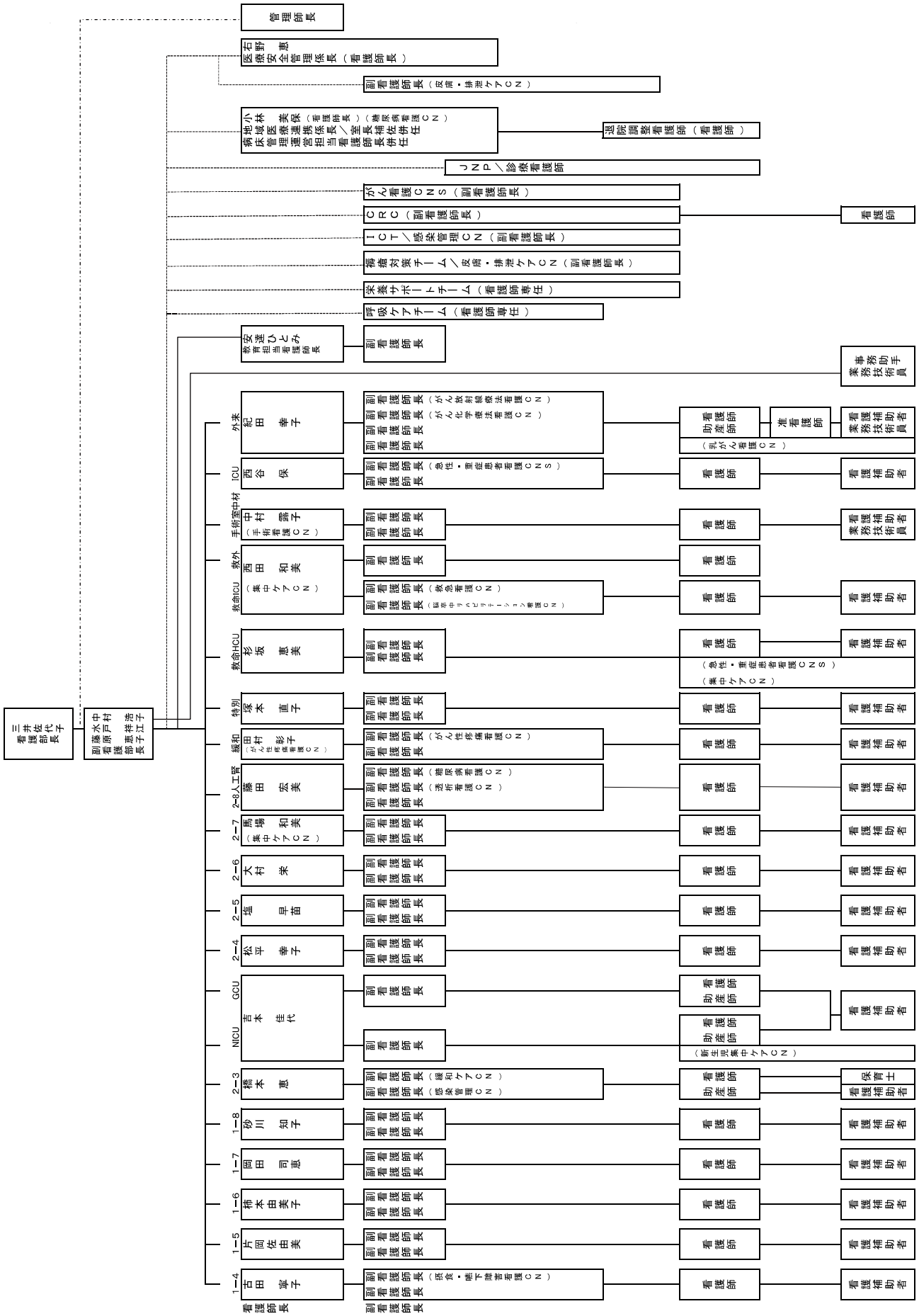
Ⅰ. 看護部組織図
（別紙１：看護部組織図）

Ⅱ. 看護部会議・委員会
（別紙２：看護部会議・委員会機能図）

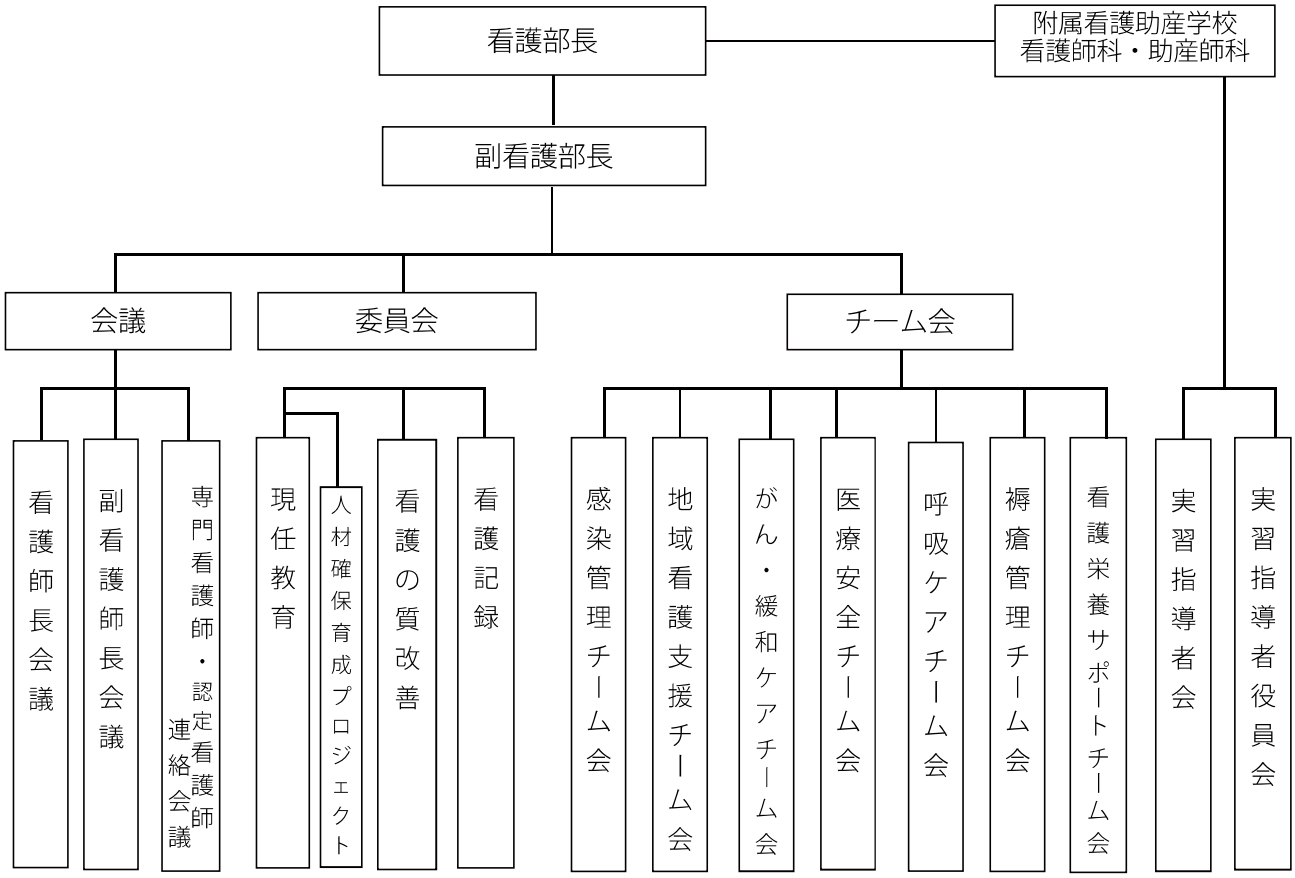
□ 看護部の活動

（別紙３：看護部の活動）

別紙１：看護部組織図


管理師長
医療安全管理係長（看護師長）
副看護師長（皮膚・排泄ケアCN）
病院管理運営担当看護師長／地域医療連携係長／看護師長（高度専門看護CN）
併任
併任
併任
退院調整看護師（看護師）
JNP／診療看護師
がん看護CNS（副看護師長）
CRC（副看護師長）
看護師
ICT／感染管理CN（副看護師長）
褥瘡対策チーム／皮膚・排泄ケアCN（副看護師長）
栄養サポートチーム（看護師事務）
呼吸ケアチーム（看護師事務）
安達ひとみ 看護部長補佐
副看護師長
業務技術助手
三井佐代子 看護部長
水戸村祥治 副看護部長
戸中恵子 副看護部長
外来 紀田幸子
副看護師長（がん放射線療法看護CN）
副看護師長（がん化学療法看護CN）
副看護師長
助産師 看護師
准看護師
業務技術補助員
看護補助者
（乳がん看護CN）
ICU 西谷保
副看護師長（急性・重症患者看護CNS）
副看護師長
看護師
看護補助者
手術室中村 中村霞子（手術看護CN）
副看護師長
副看護師長
看護師
業務技術補助員
救外 西田和美
副看護師長
看護師
救命ICU 西田和美（集中ケアCN）
副看護師長（救急看護CN）
副看護師長（医療中リハビリテーション看護CN）
看護師
看護補助者
救命HCU 杉坂惠美
副副看護師長
看護師
看護補助者
（急性・重症患者看護CNS）
（集中ケアCN）
特別 塚本直子
副副看護師長
看護師
看護補助者
緩和 田村彰子（がん性疼痛看護CN）
副副看護師長（がん性疼痛看護CN）
看護師
看護補助者
2-8人工腎 藤田宏美
副副看護師長（糖尿病看護CN）
副副看護師長（透析看護CN）
看護師
看護補助者
2-7 馬場和美（集中ケアCN）
副副看護師長
看護師
看護補助者
2-6 大村栄
副副看護師長
看護師
看護補助者
2-5 塩早苗
副副看護師長
看護師
看護補助者
2-4 松平幸子
副副看護師長
看護師
看護補助者
GCU 吉本佳代
副看護師長
看護師 助産師
看護補助者
NICU 吉本佳代
副看護師長
看護師 助産師
（新生児集中ケアCN）
2-3 橋本惠
副副看護師長（緩和ケアCN）
副副看護師長（感染管理CN）
看護師 助産師
保育士
看護補助者
1-8 砂川知子
副副看護師長
看護師
看護補助者
1-7 岡田司惠
副副看護師長
看護師
看護補助者
1-6 柿本由美子
副副看護師長
看護師
看護補助者
1-5 古岡佐由美
副副看護師長
看護師
看護補助者
1-4 古田寧子
副副看護師長（摂食・嚥下障害看護CN）
副副看護師長
看護師
看護補助者
看護師長
副看護師長

別紙２：看護部会議・委員会機能図



看護部が関わる主な病院諸会議

○管理診療会議
○経営企画・業績評価委員会
○サービス向上委員会
○薬事委員会
○診療報酬管理委員会
○病床管理委員会・小委員会
○外来管理委員会
○手術室運営委員会
○集中治療室運営委員会
○救命救急委員会
○緩和ケア運営委員会
○地域医療連携委員会
○褥瘡対策委員会
○栄養管理委員会・NST委員会
○透析委員会・小委員会
○臨床検査委員会
○輸血療法委員会・小委員会
○化学療法委員会
○医療安全管理委員会
○医療事故対策委員会
○リスクマネージャー会
○院内感染対策委員会
○災害対策委員会
○医療機器安全管理委員会
○医療情報委員会・小委員会
○クリティカルパス委員会
○広報委員会
○安全衛生委員会
○過半数代表者会議・選出選挙委員会

別紙３：看護部の活動

平成27年度病院目標　：　急性期医療を中心に、地域と連携したトータルな医療サービスの提供
看護部 スローガン：　個々が誇りをもった看護力の創出

目標	課題	ポイント	組織化	実績・実施内容
全看護師の急性期看護能力の向上	○質の高い看護の提供に向けた教育システムの実践・評価と、自己学習力の発展 ○急性期の患者への ・アセスメント能力の向上 ・看護計画の充実 ・看護技術能力の強化 ・看護記録の充実 ○リスクアセスメント能力の向上	・急性期病院で勤務する看護師に求められる能力強化 急性期看護に求められるアセスメント能力（呼吸・循環・代謝機能等）強化 急性期看護に求められる看護技術力の強化 増えつつある対象群：高齢者・認知症看護能力の強化 ・医療安全、リスクアセスメント能力の向上（分析方法を理解したインシデントの予防） ・標準看護計画の充実と、看護計画立案能力の向上 ・記録の記載基準の作成 ・看護記録についての教育システムの構築	専門看護師・認定看護師連絡会 呼吸ケア看護チーム会 褥瘡管理チーム会 看護栄養サポートチーム会 医療安全チーム会 感染管理チーム会 看護記録委員会 副看護師長会 看護の質改善委員会	H26年度作成の集中治療領域クリニカルラダーによる教育の実施 専門看護師・認定看護師による学習会の開催 呼吸ケア看護チーム会によるフィジカルアセスメント学習会の開催 RSTラウンド参加による呼吸ケアのOJTの実施 アセスメント能力向上を図るための褥瘡発生カンファレンスの実施 ポジショニング技術向上を図るための学習会の継続 嚥下評価実践力の向上を図るための学習会の開催 転倒要因分析の結果から転倒防止に向けた取り組み（スリッパ撲滅運動、離床センサー選択フローチャートの作成） 未梢静脈ライン刺入部のIMS静脈炎スケール使用による観察の徹底 標準看護計画の新規作成と見直し（248項目） 看護記録記載基準・記載要領・モデルカルテの作成 看護記録について各看護単位での教育に留まっているため、教育システムの構築が課題 看護手順の新規作成（22項目） 看護手順の改訂（47項目）と監査（3項目）の実施
速やかでスムーズな地域との連携と、安定した経営	○さらなる患者数確保と在院日数の短縮 ○京都府南部の基幹病院（高度総合医療センター）として、前方連携・後方連携の強化 ○DPCのⅢ群からⅡ群を目指す	・患者数の確保：目標患者数540名/日 ・平均在院日数の短縮：目標平均在院日数12.0日台（13.0日未満） ・病床管理・病床調整の充実（専門性を強化しつつ空床ベッドの有効利用・効率的入院処理の業務調整） ・長期入院患者の減少（症例に合わせた早期の退院調整・どこに入院しても退院を見据えた調整） ・前方連携の強化（顔の見える関係・地域のニーズへの対応） ・後方連携の強化（顔の見える関係・正確な情報の提供と継続看護の充実） ・救急医療の充実と推進 ・地域がん診療拠点病院の推進 ・京都府災害拠点病院の機能整備 ・現診療報酬について評価し、改善項目を実践 ・管理加算など確実な算定への実践の強化 ・平成28年度診療報酬改定に向けた対策を構築 ・機能に応じたベンチマークを行い評価（国立病院機構評価指標、日本看護協会DiNQLの活用） （入院支援センター設立に向けての準備状態を継続）	地域看護支援チーム会 がん・緩和ケアチーム会 経営・病院機能充実ワーキング	一日平均患者数：522.9名、平均在院日数：13.6日、病床稼働率：93.6% 地域連携室看護師長により効果的な病床管理に向けた病床調整の実施 早期にスムーズな退院調整を行うための退院支援カンファレンスの充実 訪問看護交流会の開催 正確な情報提供をしていくための知識習得に繋がる事例検討の実施 「断らない医療」を推進していくために、チーム医療充実による救急受け入れ体制の強化、急性期看護に求められる実践力の強化が課題 意思決定支援のためのIC同席・カンファレンスの実施の定着 医師・薬剤師による病棟単位の特性を踏まえたレジメンの学習会の開催 「生活のしやすさの質問票」を導入し、看護介入の充実 大規模災害訓練の実施、災害医療に関する学習会の開催 確実な算定に向け1項目のみ検証・改善の実施 診療報酬に関する知識の向上を図り、正確・確実な算定に繋げることが課題 重症度・医療・看護必要度評価（新要件）のシュミレーションの実施 25%維持のための方策の検討・実践が課題 1年間DiNQLデータ入力のみとなったため、ベンチマーク評価を行い看護管理に活かすことが課題 看護の質の向上、業務の効率化のためにも入院支援センター設立が必要
	○優秀な人材（看護職員）の確保 ○優秀な人材（看護職員）の育成 ○やりがいの充実 （定着促進・離職防止） ○非公務員化における職場環境の調整	使いやすい電子カルテ更新に向けた準備と更新内容の教育 看護管理基準改訂版の評価と改善 看護が充実し働きやすい看護体制の整備 （各看護単位の看護体制・組織の明確化、固定チームナーシング・PNS等の評価） 看護職員の定着促進と離職防止対策の継続と新たなる施行 新人看護師（ACTy対象看護師等）のフォロー体制の強化 （パートナー・チューター等役割の整理と明確化） キャリア支援における各研修プログラムの一元管理・誰もが活用できるシステムづくり 各部署の教育プログラムの評価と再構築 非公務員化における労働環境の整備と労務管理	電子カルテ更新ワーキング 看護体制・組織検証ワーキング 人材確保育成プロジェクト 副看護師長会 現任教育委員会 人材確保育成プロジェクト 現任教育委員会 看護管理実践力強化ワーキング	現状の問題を改善できる電子カルテ仕様書の作成 看護管理基準資料の見直しのみ実施、活用の評価と見直しが課題 看護体制の評価：PNSの病棟は「人材育成」「時間効率」、固定チームナーシングの病棟は「安全」「チーム運営」が高値であり、後者が看護業務を効果的運営できると評価 リフレッシュ講座2回（アロマテラピー、ジャズダンス）開催 中堅看護師・リンクナースの支援強化のための副看護師長による支援体制の検討と実践 経年別集合研修を効果的に行うために、研修前の動機づけと研修前後の課題への取り組みの関わり 研修計画公開用のCoMedix使用方法の周知 現在の教育プログラムの評価と教育プログラムの変更に伴う教育体制の検討が課題 子育て支援制度に関する学習会、事例検討による知識・実践力の向上
倫理的観点にぶれない看護サービス	○さらなるチーム医療の推進 ○他職種カンファレンスの推進 ○倫理的判断ができる組織への発展 ○看護研究倫理審査の導入 ○倫理的評価を基盤に看護研究の推進と発展	病院機能評価受審の評価を受けての改善、さらなる充実を目指す 看護の質の向上、選ばれる病院につながる他職種のカンファレンスの運営・調整 行動制限、看護計画の開示等で同意を得ることの徹底 職業倫理の醸成、看護実践を通じての倫理観の育成 看護研究倫理審査の導入を通し、看護研究の推進と発展 看護研究の指導者の招聘と育成 患者・職員間の接遇と、承認し合える関係づくり（挨拶・身だしなみ・言葉使い等）	経営・病院機能充実ワーキング 他職種連携推進小委員会 看護臨床倫理ワーキング 看護研究倫理審査小委員会 看護サービス向上ワーキング	病院機能評価受審評価のB評価項目の改善に向けての取り組み：アレルギー情報の共有化、病棟で使用する医療機器の始業点検チェックリストの作成・使用、救急部門の患者プライバシー確保のためのマニュアル作成 他職種カンファレンスの積極的な取り組みの継続 行動制限の範疇について看護部の認識統一、マニュアル改訂（案）作成 倫理に関する学習会の開催（看護師長会、副看護師長会）、各看護単位での倫理カンファレンスの定着 看護研究倫理審査小委員会を10月から開催（20題（延べ32題） 身だしなみ基準の作成、身だしなみチェックの実施（8月、2月）

□ 会議･委員会活動

Ⅰ. 会議･委員会

1. 副看護師長会議

目　的	看護部の目標達成に向け、副看護師長の役割果たす
目　標	1）中堅看護師（6～10 年）の現状を理解し、支援方法のシステムを構築する 2）リンクナースたちがリーダーシップを発揮できるよう支援し、支援のシステムを構築する 3）看護実践基準の評価と修正ができるシステムを構築できる 看護手順作成に関する基準が完成でき、必要な看護手順を作成できる
活動内容	1）中堅看護師の支援 ①アンケートと面談を実施し現状把握 ②承認行動の促進、ナラティブの会、異動者への面談、教育・指導に悩める中堅看護師を支援する会の実施 2）看護部委員会・チーム会メンバー（「リンクナースたち」と位置づける）の支援 ①リンクナースたちの支援についてのニード・モチベーションの調査 ②支援に焦点を当て、支援内容の検討と実践レベルでの支援システム作り 3）看護実践基準、看護手順 ①看護実践基準の使用状況の把握と推進 ②新規作成が必要な看護手順を 25 項目、改訂が必要な看護手順 6 項目の作成と監査
成果と課題	1）今年度見出した中堅看護師・リンクナースの支援方法を実践し評価していく 2）今後も副看護師長会が中心となり看護実践基準・手順の作成、改訂を行っていく

2. 専門･認定看護師連絡会議

目　的	看護部の理念に基づき、専門看護師・認定看護師の活動を円滑に行うことにより看護の質向上に寄与する
目　標	1）看護実践や集合教育を通して、当院の看護の質が向上する 2）組織横断的な活動を拡充し、介入件数を増やすことができる 3）地域に向けた情報発信ができる
活動内容	1）専門・認定看護師セミナー、学習会を開催 「プレゼンテーションスキルの評価」ツールの作成 2）病棟ラウンドを平成 27 年 12 月から開始 3）①ポスターを更新し院内掲示　②専門・認定看護師活動日一覧表を配布 ③看護部ホームページの更新　④専門看護師・認定看護師と語らう会の開催 4）訪問看護師交流会で訪問看護師・ケアマネージャーに対してアンケート調査の実施
成果と課題	1）専門・認定看護師セミナーの参加者は、院内：50 名、院外：53 名、学生：25 名、参加満足度は高かった。今後は、学習会が「看護の質向上」に有効であったかを評価する方法の検討が必要である 2）病棟ラウンドを毎月実施できるようになったが、その効果については評価が必要である 3）専門・認定看護師と語らう会の参加者は 11 名だった。新たに専門看護師・認定看護師を目指す人材の発掘および支援につながる活動を継続していく 4）地域の訪問看護師へ専門看護師・認定看護師に対するニーズを確認した。今後のセミナー、学習会への参考とする

学習会実施結果

開催日	分野名	テーマ	講師	参加人数
7 月 21 日	糖尿病看護	フットケア～足の爪を切ってみよう～	小久保	16
9 月 9 日	緩和ケア	エンゼルケア	上村	20
9 月 25 日	皮膚・排泄ケア	褥瘡評価スケール ESIGN-R	河合	70
10 月 14 日	がん看護	がん患者の包括的視点でのアセスメント	櫻井	27
10 月 28 日	脳卒中ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ看護	認知機能が低下している患者への関わり	樋口	22

11月2日	がん化学療法	化学療法による骨髄抑制時の看護援助のポイント	田中	12
11月11日	感染管理	吐物処理を学ぼう	森・宮地	126
12月3日	摂食・嚥下障害看護	ナースができる摂食嚥下リハビリテーション	宇治本	18
12月17日	集中ケア	深部静脈血栓症予防	森口	22
12月21日	新生児集中ケア	新生児の蘇生	岡庭	11
1月8日	急性・重症患者看護	看護研究の倫理的配慮	森本	15
1月15日	乳がん看護	壮年期がん患者・家族への看護を考える	荒木	9
1月29日	がん性疼痛看護	がん看護　～せん妄～	落合	14
2月10日	救急看護	蘇生のいろは	清水	22
2月18日	放射線療法	放射線療法看護～皮膚炎・粘膜炎のケア～	川端	6
3月1日	透析看護	透析患者の身体を知ってケアを考えよう	川瀬	14

3．現任教育委員会

<table>
<tr><td>目　的</td><td>当院の使命を自覚し、科学的根拠に基づいた質の高い看護実践能力、専門的知識・技術・態度に優れた看護師を育成する</td></tr>
<tr><td>目　標</td><td>1）経年別研修計画の企画運営ができ、研修生が到達目標を達成することができるよう支援する
2）集合教育と機会教育の連携を強化し、教育体制を充実させる</td></tr>
<tr><td>活動内容</td><td>1）看護職員能力開発プログラム到達目標に沿った集合研修の企画運営
<table>
<tr><td>新採用者研修</td><td>75名</td><td>7テーマ14回、リフレッシュ研修1日間</td></tr>
<tr><td>実務Ⅰ前期研修</td><td>62名</td><td>4テーマ8回</td></tr>
<tr><td>実務Ⅰ後期研修</td><td>51名</td><td>3テーマ6回、一日院内留学研修</td></tr>
<tr><td>実務Ⅱ研修（4年目）</td><td>56名</td><td>3テーマ6回</td></tr>
<tr><td>実務Ⅱ研修（5年目）</td><td>44名</td><td>3テーマ3回、看護管理研修
（自部署にて一日間）</td></tr>
<tr><td>既卒者研修</td><td>13名</td><td>1テーマ1回</td></tr>
<tr><td>キャリア支援
（6年目以上）研修</td><td>130名</td><td>6テーマ6回</td></tr>
</table>
2）機会教育における研修前課題、研修後課題の計画的な支援と指導者への周知した。研修前の動機付けを計画的に支援し充実させ、研修後は現任教育便りを発行し支援方法を提示した。集合研修では、楽しく効果的に学び、看護実践に結びつくよう工夫を行った</td></tr>
<tr><td>成果と課題</td><td>1）研修目標達成度とやる気度の平均値（研修アンケート結果より）
<table>
<tr><td></td><td>1年目</td><td>2年目</td><td>3年目</td><td>4年目</td><td>5年目</td></tr>
<tr><td>目標達成度</td><td>90%</td><td>87%</td><td>91%</td><td>87%</td><td>88%</td></tr>
<tr><td>やる気度（10MAX）</td><td>6.4</td><td>5.7</td><td>5.9</td><td>5.4</td><td>6.3</td></tr>
</table>
2）研修前課題や動機付けへの支援は充実した。委員会を通して副看護師長の教育への意識は高まりつつある。今後は、看護実践場面での効果的な関わりと教育体制の充実が課題である</td></tr>
</table>

4．人材確保育成プロジェクト

目　標	1）質の高い看護職員の確保に向けた積極的活動を行う 2）看護職員の離職防止に向けた活動を行う 3）看護部内で実施される研修や勉強会の一元化を図り、職員が効果的に受講できるシステムを作る
活動内容	1）就職説明会のブースで使用する物品の検討と作成 インターンシップ、ふれあい看護体験、中学生チャレンジ体験の企画・運営 2）看護職員対象のリフレッシュ講座の企画と実施 3）コメディックスのスケジュール機能を利用しての看護部の勉強会の周知方法の検討と発信
成果と課題	1）就職説明会に使用するPRポスターを4パターンと、DVDの作成 ふれあい看護体験参加：9名　中学生チャレンジ体験参加：10名 2）リフレッシュ講座の開催：①1月21日：アロマテラピー講座 ②2月17日：ジャズダンス講座

5. 看護の質改善委員会

目　的	1）看護基準・手順の見直しと周知 2）看護提供プロセスの検討と改善
目　標	1）手順の見直しを実施して、看護実践に活用できる 2）退院時アンケートを実施し、評価した結果を看護の質改善に活用できる
活動内容	1）看護手順の見直し・監査と周知徹底 2）退院時アンケート：3 回/年実施（1 回目:584 名、2 回目:649 名、3 回目:454 名）
成果と課題	1）看護手順 ①言語の統一・記載方法の統一、87 項目の見直しにより、改訂：47 項目 削除：18 項目 ②監査：3 項目（更衣、採血、酸素療法） 次年度は、今年度の見直し、及び新規作成した項目の監査、実践に沿った看護手順の改訂を行っていく 2）退院時アンケート 点数が悪かった項目に関して、各病棟で対策を立て重点的に取り組んだことにより、改善の効果は見られた 次年度は、年 2 回の実施とし、また、身だしなみ、接遇に対する取り組みも行っていく

6. 看護記録委員会

目　的	看護部の理念に基づき、看護職員の資質の向上・発展を図るため、看護過程の監査及び記録システムの改善を図る
目　標	1）看護記録内容の質の向上をはかる 2）看護過程の思考プロセスを理解し記録できる
活動内容	1）看護記録記載要項の作成・記録監査をする 2）標準看護計画の評価・追加・修正をする 3）電子カルテ更新の運用に向けて取り組む
成果と課題	1）①看護記録記載要項作成した。今後は、使用後の評価・修正を行っていく ②看護記録監査：看護過程の展開については○の比率 90%以上である 今後は、行動制限、看護計画が患者・家族の同意得ていることの記録の向上を図る必要がある 2）標準看護計画の評価・追加・修正を行った。内容の最終確認と電子カルテとの連動が必要である 3）電子カルテ更新後の運用に向けて、現状の電子カルテの問題点を抽出した

Ⅱ. チーム会

1. 感染管理チーム会

目　的	感染予防対策の充実に向けた活動をする
目　標	1）スタッフ全員が正しい知識を持ち、感染対策を実践できる 2）感染防止の視点で環境改善、整備ができる 3）末梢静脈ライン刺入部の観察を徹底し、感染徴候を早期に発見できる
活動内容	1）手指衛生 5つのタイミングについてのテストと手指衛生のモニタリングを実施 手指衛生強化キャンペーンの実施 2）環境調査チェック表の作成と使用 月 1 回の自部署の環境ラウンドと他部署のラウンドで環境の評価 3）刺入部の観察・記録の方法を決定し、静脈炎スケールを用いての記録を行う事を周知した。実施状況を確認するために、刺入部の観察と記録ができているかの調査を行なった
成果と課題	1）知識の確認テストは、繰り返し実施したことで正解率は徐々に上昇し知識の周知に繋がった　手指衛生強化キャンペーン中は、ゴージョー使用回数が上昇した 2）他部署のラウンド後は、環境調整ができており、どの病棟も出来率は上昇した 3）統一した観察、記録ができるスケールを使用することができた 今後は、手指衛生・環境調整は、継続していくことができるようにチェックするシステムが必要である

2. 地域看護支援チーム会

目　標	1）早期にスムーズな退院調整を行い、患者家族が安心して退院・転院を迎えることができるよう支援する 2）顔の見える関係をつくり、地域連携を強化できる
活動内容	1）退院支援カンファレンス充実のため、他病棟のカンファレンスに参加し、入院時から退院支援の早期介入ができるようテンプレートの活用を推進した後方支援施設よりの問い合わせ内容を分析し、正確な情報提供を行った 2）11 月 18 日：第 12 回 訪問看護師交流会の開催 ・参加者：院外：13 施設　訪問看護師 21 名、ケアマネージャー4 名、当院看護師 55 名、MSW4 名 ・パネルディスカション：パネラー：院外訪問看護師、ケアマネージャーと院内看護師、MSW
成果と課題	1）他病棟のカンファレンスの状況を知ることで効果的なカンファレンスの開催ができた。今後は、情報性の向上が課題である 2）訪問看護師交流会は、地域連携強化の機会となるため、今後も継続していく

3. がん･緩和ケアチーム会

目　的	がん看護・緩和ケアの実践力を高め、看護の質の向上をめざす
目　標	1）患者の意志決定支援ができる 2）主な化学療法のプロトコールに添った看護が実施できる 3）「生活のしやすさの質問票」にて包括的アセスメントが実施できる
活動内容	1）再発時・治療変更時の IC に同席し意思決定支援についてのカンファレンスを実施 2）各病棟の代表的なレジメンについて、その特徴をまとめ学習会を実施した 3）がんと診断され新規に入院された患者を対象に「生活のしやすさの質問票」を使用
成果と課題	1）意思決定支援への介入の必要性は理解できたと考えるが、実践においては病棟差が大きい。病棟での実践力を上げていくために、意図的な関わりと情報収集、患者・家族の思いを引き出すこと等コミュニケーションスキルの向上が必要である 2）レジメン学習会を病棟単位で行うことにより、知識を深めることができた今後は、看護実践に繋げていく必要がある 3）苦痛へのスクリーニングとして、がんと診断された患者への「生活のしやすさの 質問票」を実施することができた。今後は活用方法とテンプレート化など運用についての検討が必要である。

4. 医療安全チーム会

目　標	1）転倒転落に関する分析を行い、解決策を導き出し、周知・実践・評価ができる 2）インシデント・アクシデント事例を把握し、病棟の解決策の周知・実践ができる 3）ルート類の自己抜去・自己抜管リスクアセスメントツールを作成する
活動内容	1）スリッパ着用率の減少に向け、履物の実態調査、スタッフ教育のための資料作成、患者への靴着用を促すポスターの作成と患者指導を行った 2）毎月の会議で、院内で発生したインシデント事例の周知状況の確認と対策の共有、患者誤認インシデント防止に向けた取り組みを行った 3）平成 27 年 6 月の 1 ヶ月間のデータ収集、統計処理、分析、アセスメントスコアシートの検証を行った
成果と課題	1）履物実態調査：1 回目 8 月実施　2 回目 2 月実施　靴着用 31%→53%、スリッパ・クロックス等 60%→34%スタッフへの教育と患者への啓蒙活動の成果が見え、靴を着用する患者は増加した。しかし実際の転倒患者の背景を分析すると、履物での差は見られなかった。履物以外での転倒防止活動が必要である 2）インシデント事例を自部署の対策に繋げられた。患者誤認インデントは減少している。 3）調査症例 255 件のうち、自己抜去有 11 件（4.3%）。アセスメントシート 22 項目のうち、「不穏またはせん妄あり」「見当識障害あり」「輸液ポンプ使用」の項目で優位差があった。データ数が少なく、またシート妥当性も乏しいことから、ツールの完成には至らなかった

5. 呼吸ケア看護チーム会

目　的	呼吸ケア実践能力の向上を図る
目　標	1）呼吸フィジカルアセスメント能力の向上 2）呼吸ケアマニュアル・看護手順の追加・修正 3）呼吸ケア実践後の記録評価
活動内容	1）①各病棟で呼吸の解剖生理、フィジカルアセスメントの学習会を開催、学習会用の DVD 教材を作成し配布 ②「気道クリアランス」講義・演習の学習会開催 ③RST ラウンドへの参加を行い、医療安全や感染予防についての確認事項を再認識した 2）①呼吸ケアマニュアル：酸素療法（高流量・低流量）・抜管後の酸素流量・ネーザルハイフロー追加 ②看護手順：呼吸に関する看護手順 14 項目の改訂 3）呼吸に関する記録・看護計画の記録監査を 2 回実施
成果と課題	1）全病棟で呼吸ケアに関する学習会開催を実施し、看護記録監査により病棟での課題を明確化できた。今後も呼吸ケアマニュアル・看護手順・DVD 教材を活用した教育を継続する 2）手順の活用方法を周知徹底し、安全で効率的な呼吸ケア実践を行い、評価を監査表を用いて行う

6. 看護栄養サポートチーム会

目　的	入院患者の栄養不良、あるいはその危険が高い患者に対して栄養改善をはかり、栄養不良による合併症を予防し、ＱＯＬを改善する
目　標	1）入院患者の誤嚥・窒息予防、および摂食機能療法ができる 2）栄養管理の必要な患者をＮＳＴに依頼できる 3）口腔の清潔をはかり誤嚥性肺炎を防止することができる
活動内容	1）病棟スタッフの嚥下評価が出来るようにする 2）病棟スタッフの口腔ケア技術実践向上をはかる 3）病棟スタッフの栄養管理能力向上をはかる
成果と課題	1）嚥下評価方法の知識習得者：457 名 2）食事開始までの手順伝達者：463 名 3）食事開始後の評価内容習得者：463 名 4）学習「嚥下のメカニズム~絶食時の食事開始の進め方~」「正しい安全な食事姿勢と介助の注意点」「ＳＧＡについて」「口腔ケアについて」 5）ＮＳＴ依頼対象者の基準作成 6）入院時ＳＧＡ評価を栄養不良有りで評価できる（52%→79.5%） 課題 1）必要な患者にＳＧＡ評価ができ、他職種とのカンファレンスの実施、看護計画の立案 2）口腔ケアの技術向上 3）適切に嚥下機能評価ができ、誤嚥・窒息を予防する看護の提供

7. 褥瘡管理チーム会

目　的	褥瘡を発生させないように対策を行う
目　標	1）褥瘡管理についてアセスメントを高めることでスタッフの意識向上へ繋げる 2）スタッフが正しく褥瘡管理技術（ポジショニング）を身につけ実践できる
活動内容	1）リンクナースがリーダーシップシップをはかり、褥瘡発生カンファレンスの実施 2）褥瘡管理チームによるポジショニングラウンドの実施
成果と課題	1）褥瘡発生カンファレンス用紙と褥瘡発生テンプレートを作成し、運営方法についても明文化した。リンクナースを中心に褥瘡発生カンファレンスを実施、看護計画を立案した。褥瘡発生カンファレンス開催率：約 65%、褥瘡発生カンファレンスの定着を行っていく必要がある 2）ポジショニング監査用紙を用いて根拠を明確にした勉強会を実施し、技術チェックを全スタッフに実施した 10・12 月に病棟ラウンドを実施した結果、達成できなかった項目の上位は踵の除圧であった。今後、スタッフ全員が適切なポジショニングが実施できるように活動していく必要がある

Ⅲ. ワーキング

1. 経営・病院機能充実ワーキング

目　標	1）病院機能評価受審後の課題を明らかにし継続的な取り組みができる 2）DiNQL を活用し、ベンチマークを利用した検証ができる 3）平成２８年度診療報酬改定に関する情報を共有することができる
活動内容	1）病院機能評価での残された課題の整理を行い、取り組みを検討し実施する 2）DiNQL について勉強会を行い、現状の課題の抽出と入力方法等についての構築、ベンチマーク評価を行う 3）平成 28 年度診療報酬改定に関する情報発信を行う
成果と課題	1）病院機能評価で B 評価における改善策と対応策について検討した。モニター始業前点検票を作成し使用開始した。多職種間で患者情報が共有できるデータベースの改善と、休日リハビリテーション実施評価とテンプレートの検討が必要である 2）DiNQL について勉強会を開催し、7 月からデータ入力を開始したが、ベンチマークを活用した目標管理には至らなかった。データ入力項目の集計が煩雑であり、電子カルテを活用したデータ収集システム構築が必要である 3）平成 28 年度診療報酬改訂に関する勉強会を医事課と連携し開催した。7 対 1 入院基本料に関わる看護必要度新要件でのシミュレーションを行い、病床配分の改訂に繋げることができた。看護必要度 25%以上維持できる病床管理と地域連携強化が今後の課題である

2. 看護体制・組織検証ワーキング

目　標	1）各看護単位の看護体制の評価を基に検証、良質の看護を提供できる看護体制を組織化し提示する 2）看護単位概況書の見直し及び新看護管理基準を評価し、必要時改訂する
活動内容	1）①人材育成」「安全」「患者満足」「コミュニケーション」「時間効率」「看護過程の展開」「カンファレンス」「チーム医療」というカテゴリーで各看護単位の看護師長、副看護師長に 66 項目のアンケートを実施 ②PNS 病棟の看護師長、副看護師長に PNS の定義に基づいて 27 項目のアンケートを実施 2）看護単位概況書の定義・目的の共通理解、必要項目を選択し内容の見直し 3）新看護管理基準の参考資料の追加・差し替え
成果と課題	1）アンケート結果より、定義に基づいた PNS が実施できている病棟はなく、「人材育成」「時間効率」は PNS 病棟、「安全」「チーム運営」は PNS 病棟以外の病棟が看護業務を効果的に遂行できると解釈できた。 今後は、全病棟が固定チームナーシングでの組織化を図っていく。また、アウトカム（超過勤務時間、離職率、インシデント件数等）について分析していく 2）看護管理基準について、管理師長ポケットマニュアル等と統合させ、必要な内容を網羅し改訂していく

3. 看護臨床倫理ワーキング

目　的	臨床の倫理問題について、検討できるシステムの構築と、解決手法を事例を通して定着させる
目　標	1）患者の安全と人権を尊重した看護実践；倫理的視点で行動制限を検討することができる 2）説明と同意に基づいた看護実践への記録ができる 3）倫理的問題を話合うことができ記録できる
活動内容	1）行動制限マニュアルおよびテンプレートの見直し 2）看護計画開示および IC 時、行動制限に関する記録監査 3）看護師長、副看護師長対象の倫理研修の実施、倫理検討シートの作成と活用
成果と課題	1）倫理的観点から行動制限の範疇を見直し、行動制限マニュアルの見直しを行った。今後、行動制限の定義を明確にした後、テンプレートの完成と周知をしていく 2）記録監査の結果、記録への記載が不十分であった。説明と同意に基づく看護実践への考えが浸透するような教育および適切な記録のためのマニュアルの整備が必要である 3）倫理研修では現場での倫理問題について話合い認識を高めることができた。倫理検討シートの作成と各病棟で試用することができた。今後、シートの使用についての教育と現場での活用・運用について取り決めしていく必要がある

4. 看護サービス向上ワーキング

目　的	専門職業人としての態度、姿勢、接遇の強化をはかる
目　標	看護師としての態度、姿勢、接遇を強化し看護サービスの向上を目指す
活動内容	1）身だしなみ強化月間として身だしなみチェック（2 回）病棟ラウンド(1 回)の実施
成果と課題	1）身だしなみ強化にあたり、接遇ＤＶＤの視聴後に身だしなみチェックを実施し、改善項目を抽出した。身だしなみチェックと病棟ラウンドを実施し、改善項目が 100%になるように取り組んだ。次年度も身だしなみチェックを定期的に実施し、実践レベルの評価継続が必要である

5. 看護管理実践力強化ワーキング

目　標	1）労務管理の基礎となる法的根拠が理解できる 2）非公務員化に伴う就業規則の改定を理解し、適正な労務管理ができる 3）病棟での問題を共有し、対策を考え労務管理ができる
活動内容	1）労務管理（法律学習会）:「労務管理とは何か」という視点で事例検討 2）労務管理（就業規則学習会）: 事例検討 3）子育て支援について学習会：事例検討 学習会後、改善に向けて自部署で取り組み、それを踏まえ検討会を2回実施
成果と課題	1）事例検討により、各部署の現状把握や共有する機会、問題や今後の取り組み方など、看護師長の認識の共有・統一する機会となった

□ 地域医療連携・広報活動

1. がん看護研修ステップ

・ステップⅠ:10月24日、11月14日　計10時間　　修了者:院内　24名、院外:25名

・ステップⅡ:7月1日、7月17日、10月16日　計11時間　　修了者:院内　9名

2. 専門・認定看護師セミナー

6月20日開催、　テーマにて講義・演習を実施　　参加者:128名（院内:50名、院外:53名、学生:25名）

3. ふれあい看護体験

7月23日:高校生10名参加

4. 生き方探究・チャレンジ体験

11月4日～６日（3日間）　中学生5名

11月9日～12日（4日間）　中学生3名

1月10日～12日（3日間）　中学生2名

□ 看護部の活動

1. 投稿・執筆　（別紙４）
2. 院外発表　（別紙５）
3. 院内発表　（別紙６）

別紙4：投稿・執筆

１．平成27年度　雑誌投稿・執筆

出版社	雑誌名	テーマ	部署	著者名
メディカ出版	ハートナーシング 2016年 4月号	新人ナースの不安＆疑問を一挙解決！ みるみるわかる心臓まるごとQ＆A50	救命救急センター ICU	西田　和美
メディカ出版	オペナーシング 2016年　6月号	ウチの手術室のココがすごい！機械出しマニュアル"イイトコ取り自慢大会	手術室	大林　理那
日総研出版	月刊ナースマネージャー 2016年　3月号	師長が感じている困難感をプラスに変える多様な働き方をするスタッフをチームで生かすための視点	看護部長室	藤原　恵子
日総研出版	手術看護エキスパート 2015年　9.10月号	手術室看護師のためのナラティブ 現場で活かせる知識　～看護を語る会を行なって～	手術室	栗岡　聡子
日総研出版	手術看護エキスパート 2015年　11.12月号	手術室看護師のためのナラティブ 現場で活かせる知識～手術室看護師の成長に活かすナラティブ～	手術室	小椋　裕美
日本メディカルセンター	臨床透析	腎不全と共に生きる患者および家族へのナラティブアプローチ	2病棟8階	瀧井　友美
メディカ出版	ハートナーシング 2016年 3月号	理想のカタチを追求しよう 教えて！あなたの施設のカンファレンス	2病棟6階	大村　栄
メディカ出版	ブレインナーシング 2016年　4月号	詳しく聞きたい！看護のくふうのキモとミソ 院内BAD治療マニュアル作成の取り組み	救命救急センター ICU	樋口　泰子
日総研出版	脳の看護実践 2015年 8.9月号	脳卒中超急性期の看護実践における行動制限～身体拘束について考える	救命救急センター ICU	樋口　泰子
日総研出版	手術看護エキスパート 2016年　1.2月号	手術室看護師のためのナラティブ 現場で活かせる知識 ～ナラティブから分かる手術室看護師の実践知～	手術室	中村　露子
日総研出版	看護きろくと看護過程 2015年　10.11月号	患者と共に歩む看護実践を目指した形式監査の実施と質監査の導入	集中治療室	西谷　保
メディカ出版	エマージェンシーケア 2016年　3月号	Expert Café なんでもお悩み相談室	救命救急センター ICU	清水　克彦
学研メディカル	月刊ナーシング 2015年　5月号	『大特集！夜勤はこう動く！ひとり立ちマニュアル』 重症患者の見方と対応：脳神経系	救命救急センター ICU	森口　真吾
南江堂 臨床出版	日本循環器学会専門医誌 「循環器専門医」 2016年　vol.24　No.1	第14回禁煙推進セミナー「喫煙と循環器疾患up　to Date」 3.禁煙支援の実際とコツ	外来	寺嶋　幸子
メディカ出版	はじめてのがん化学療法看護-カラービジュアルで見てわかる！ 2016年3月5日発行 第1版第1刷	第3章 職業性曝露対策	外来	田中　雅子

別紙５：院外発表

２．平成27年度　院外研究発表

	テーマ	学会名	開催日	部署	発表者名
1	救命救急センターにおける深部静脈血栓・肺塞栓予防の適切な運用にむけた取り組み	第11回日本クリティカルケア看護学会学術集会	6月27日	救命救急センターICU	森口　真吾
2	生後24時間の授乳回数と体重減少率、補足率、母乳率との関係	第24回母乳育児シンポジウム	8月1,2日	2病棟3階	橋本　恵
3	多職種協働による薬物治療アセスメントシート活用の取り組み	第69回国立病院総合医学会	10月2.3日	NICU・GCU	岡庭　暁子
4	インスリンインシデント減少に向けた取り組み	第69回国立病院総合医学会	10月2,3日	2病棟8階	小久保　敦子
5	遺族会に参加した家族の思い	第69回国立病院総合医学会	10月2,3日	緩和ケア病棟	加藤　有紀
6	褥瘡減少に向けた当救命救急センターICUでの取り組み	第69回国立病院総合医学会	10月2,3日	救命救急センターICU	尾崎　美聡
7	救急外来における電話相談の実態調査	第69回国立病院総合医学会	10月2,3日	救急外来	西村　文夫
8	覚醒評価基準の導入に伴う安全な帰宅の取り組み	第75回日本消化器内視鏡技師学会	10月10日	外来	北野　由美
9	院内BAD治療マニュアル作成の取り組み	第42回日本脳神経看護研究学会	10月16日	救命救急センターICU	樋口　泰子
10	終末期がん患者の退院後の生活からみる質の高い退院支援の要素	第57回近畿地区国立病院看護学会	10月31日	1病棟6階	三木　彩佳
11	外来化学療法センターにおける自記式問診票導入後の評価	第57回近畿地区国立病院看護学会	10月31日	外来	青山　佳代子
12	外来化学療法センターでの実習における学生の学びーイメージマップを用いた分析、第2報ー	第13回国立病院看護研究学会	11月28日	外来	岩松　美穂
13	インスリン関連インシデント対策に取り組んで	日本医療マネージメント学会第13回京滋支部学術集会	2月13日	2病棟8階	小久保　敦子
14	インシデントレポーティングシステム導入の効果と応用	日本医療マネージメント学会第13回京滋支部学術集会	2月13日	医療安全管理室	右野　恵

別紙6：院内発表

３．平成27年度 院内研究発表

		テーマ	部署	発表者
口述発表	1	集中治療領域における教育教材開発の取り組み	救命救急センターICU	樋口　泰子
	2	救急外来における電話相談の現状と課題	救急外来	西村　文夫
	3	手術チームでの協働により安全の文化を発展させるために	手術室	小椋　裕美
	4	外科外来における術後補助化学療法に対する看護介入 ～内服抗がん剤治療を受ける患者への支援～	外来	西村　美佐代
ポスター発表	5	栄養サポートに対するスタッフの意識の向上	１病棟４階	中村　寛子
	6	硝子体手術後患者の腹臥位安静による皮膚損傷の予防	１病棟５階	原田　健太
	7	鎮静剤下内視鏡後の転倒予防に向けた取り組み	１病棟７階	千坂　直美
	8	がん患者のせん妄ケアについて、私たち看護師ができること ～がん看護研修の学びからの考察～	１病棟８階	布施　克美
	9	放射線食道炎患者の咽頭痛・嚥下困難感の軽減へのかかわり	１病棟８階	山本　美菜
	10	HIV/AIDS看護外来の基盤づくりに向けた取り組みを振り返って ～患者が話せる場所を作りたい～	１病棟８階	岩嶋　貴子
	11	助産実践能力習熟段階(クリニカルラダー)への取り組み	２病棟３階	毛利　洋子
	12	口唇口蓋裂手術を受ける患児に対する看護の関わり	２病棟３階	松本　悠見
	13	NICUにおける感染予防	NICU	上原　千晶
	14	急性期・一般病棟のPNSに対するスタッフの意識調査	２病棟４階	永峰　淳子
	15	内服薬の服薬技術の分析 ～スタッフ間の内服における技術や認識の違いについて～	２病棟６階	光居　詩織
	16	チーム活動報告～急変時看護の知識・技術の向上を目指した取り組み～	２病棟７階	石浦　麻貴
	17	透析室における抗凝固剤のインシデント減少への取り組み	２病棟８階	藤田　宏美
	18	患者カンファレンスの定着に向けた取り組み	２病棟８階	安藤　厚志
	19	緩和ケア病棟における家族システムの回復ができた一例 ～若年性癌患者の家族への介入と援助～	緩和ケア病棟	奥平　勇人
	20	緩和ケア病棟における家族システムの回復ができた一例 ～30代の妻と幼児に対する援助～	緩和ケア病棟	山口　牧子
	21	終末期患者の口腔内トラブルの改善を目指して ～歯科口腔外科医師との連携による口腔ケア回診を実施して～	緩和ケア病棟	長井　由衣
	22	患者カンファレンスの定着に向けて	特別室個室病棟	家本　歩美
	23	救命救急センターICUにおけるせん妄ケアの現状と課題	救命救急センターICU	森口　真吾
	24	敗血症性ショック患者に対するせん妄予防を通して～趣味を取り入れた介入～	救命救急センターICU	吉田　咲子
	25	救命救急センターICUにおける教育ラダー導入の評価 ～新採用者への技術チェックリスト活用～	救命救急センターICU	伊藤　明信
	26	褥瘡発生減少へ向けた救命ICUでの取り組み	救命救急センターICU	尾崎　美聡
	27	人工呼吸器装着患者に対する離床の効果と看護師の役割	救命救急センターICU	松下　紀子
	28	自己抜去・自己抜管リスクアセスメントシートの作成に向けて　～第2報～	救命救急センターHCU	深川　哲嗣
	29	救命センターHCUにおける褥瘡ケア能力向上に向けた取り組み	救命救急センターHCU	中野　達也
	30	生体情報モニター管理体制の強化に向けた取り組み	救命救急センターHCU	小田　由香
	31	カテ室における医療安全への取り組み	救急外来	前田　朱里
	32	救急外来教育ラダー実践報告	救急外来	中島　梢恵
	33	安全な体位確保のために～手術室看護師の視点で手術体位を評価する～	手術室	濵名　有紀
	34	自己の成長のための意識改革～舞妓の言葉から学ぶ～	手術室	福嶋　由美香
	35	手術室での新人教育の取り組み～カルガモ方式の導入～	手術室	千葉　あゆみ
	36	手術室看護の倫理的感受性の育成に向けての取り組み	手術室	大森　富美子
	37	集中治療室における新規褥瘡発生患者数の減少の取り組み	集中治療室	増田　可奈
	38	鎮静下で外来上部内視鏡検査を受ける患者の安全な帰宅への取り組み ～覚醒評価基準への導入～	外来	北野　由美
	39	外来化学療法センターでの実習における学生の学び ～イメージマップを用いた分析、第2報～	外来	岩松　美穂
	40	外来化学療法センターにおける待ち時間に対する取組み	外来	谷口　雅美